



TITLE:

東京夏の学校の事務報告

AUTHOR(S):

CITATION:

東京夏の学校の事務報告. 物性研究 1966, 5(5): 309-313

ISSUE DATE:

1966-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85861>

RIGHT:

必ずしも、一つ一つの批判に従うことはできませんでしたが、どうか、あまり気短かでなく、少々気長に見ていただきたいと思います。このような試みは不必要であるとか、有害であるとかいうのが皆さんの結論であるならば、私はそれに従いたいと思いますが、だんだんに改めるべきものは改めて成長させよう、ということであれば、私たちも今後できるだけ努力はしたいと考えています。

来年以降どうするか、ということは、あまりはつきりした見通しも立ちませんが、幸い、相当熱意をもつて組織に当ろうという方々もありますので、来年も何かできるだろうと思います。皆さんの御援助を心からお願いいたします。

なお、講義の記録は面倒ですが、やはり残したいという希望が強いので、出版の準備を進めています。たぶん明年2月頃にはできる見込です。日本の出版者にやつてもらいたい、と考えていましたところ、幸い裳華房が引受けてくれました。しかし、外国での売りさばきの道がせまいので、その方は Benjamin と提携する交渉をしています。

東京夏の学校の事務報告

高野 文 彦、宗 田 敏 雄（東京教育大、理）

才1回 Tokyo Summer Institute of Theoretical Physics は才1期（多体問題）が9月6日（月）から10日（金）まで、才2期（場の理論）が9月13日（月）から17日（金）まで、各5日間ずつ、神奈川県大磯海岸にある日本クリスチャン・アカデミー・ハウスで行われた。以下にこれまでの経過と、主に才1期の行事についての報告をする。

この会の開催の話が出たのは、昨年10～11月で、久保、福田の両氏を中心として、他の組織委員（松原、中島、武田、宮沢、南部）とともに招待講師の人選交渉などについて相談が行われて来た。事務局は教育大学の物理学教室におかれることになり、高野、宗田の2人がいろいろな雑用をすることになつ

橋爪夏樹

た。1月には講師の顔ぶれや会場もほぼ定まり、国内募金の手続きも目鼻がついたので、公式のアナウンスメントが発表された。4月には専任の事務員を1人やとうことになり、中旬には参加者の募集が行われた。書類は全国各地の大学、研究室および主な個人宛に約150通発送され、才1期約120人、才2期約110人の応募者があつた。会場の宿泊設備の関係で、宿泊参加者を各期約80人にしねねばならないので、やむなくかなりの方々には出席をお断りすることになり、その選考が6月上旬に行われた。その間具体的なプログラムの作製などが進行し、8月中旬には出席者への最終的な通知を発送し、ようやく開催のはこびとなつた。

才1期の実際の参加者は日本人約85名（内通勤5名）外国人12名で講師とその題目は次の通りであつた。

K.A.Brueckner (Univ. of Calif., U.S.A.): Some Topics in
Many-Body Problem. (2時間)

P.G. de Gennes (Univ. of Paris, France): The Landau-Ginzburg Equations and Properties of Type II Superconductors. (3時間)

W.Kohn (Univ. of Calif., U.S.A.): A New Formulation of the Inhomogeneous Electron Gas Problem. (2時間)

J.M.Luttinger (Columbia Univ., U.S.A.): A New Mechanism for Superconductivity and Superfluidity in Many-Fermion Systems. (2時間)

D.Pines (Univ. of Illinois, U.S.A.): Bose Liquid Theory, with Application to He II. (3時間)

J.R.Schrieffer (Univ. of Pennsylvania, U.S.A.): Breakdown of the Quasi-Particle Approximation in Metals. (2時間)

R.Kubo (Tokyo Univ., Japan): Fluctuation-Dissipation Theorem and Brownian Motion. (1時間)

H.Mori (Kyoto Univ., Japan): Transport Phenomena near the Critical Points. (2時間)

講師の他の外人参加者の主なものは次の通りであつた。

M.D.Girardean (Univ. of Oregon, U.S.A.)
 A.P.Leggette (Aspen Institute, U.S.A.)
 E.Callen (U. S. Naval Ordnance Lab., U.S.A.)
 B.Y.Chang Chi College, Hong Kong)
 K.S.Wong (Univ. of Kansas, U.S.A.)

講義は主として午前中 3 時間ずつ行なわれ、午後または夜は主として Free discussion にあてられた。Free discussion の主な Topics は下の通りであつた。

小 野：輸送係数の密度展開	近藤	} s-d 相互作用
伊豆山	中島	
阿 部 } 2 次の相転移	松原：2 元合金における対称性	
桂	Leggette：Superfluid Fermi	
E.Callen } 2 次の相転移	Liquid	
	福田：Hartree-Fock solution の安定性	
Girardean：Generalized Bose Condensation		
Use of Orthogonalized Plane Waves in Many-Electron Problem		
Wong：Scattering Operator in Bose Gas		
Brueckner：Theory of Liq. He ³		
Present Status of Nuclear Structure Theory		

以上に他に 8 日（水）の午後は鎌倉への excursion が行われ、外人全員と日本人有志がバス 1 台に乗つて出かけた。また 9 日（木）の夜は懇親会が行われ、全員がビールのグラスを傾け、大いに歓談した。その後、日本人有志による反省会というべきものが行われ、今後の会の運営の方法、来年度への希望などについていろいろな意見が出た。（これにはとくに de Gennes が出席してフランスの夏の学校の実状について参考になる意見を聞かせてくれた）

会期中は日本人は主としてアカデミーハウスに宿泊、外人はロングビーチホ

テル（徒歩2～3分）に宿泊し、食事は全員アカデミーハウスでとるのを原則とした。講義はアカデミーハウスの講義室（約100名収容）で行われた。

会計報告：今回の会で必要とした費用の大部分は国内募金によつてまかなわれた。国内募金は募金委員会（委員長藤岡由夫）が作られ、日本学術振興会（以下学振と略記）が窓口となり、主な支出はすべて学振の手を通じて行われた。まだ最終的な収支決算は出ていないが、10月10日現在判明している収支は次のようになる。学振からは大蔵省へ会計報告が行くが、その明細はここでのまとめ方とはちがうため、以下のものとはちがうかもしれないことをお断りしておく。また学振からの報告では1期、2期の区別がないため、以下の報告は全期を通じてのものであり、各期とも支出はほぼ同額であつたことを御了承願いたい。外人の渡航費は各自負担を建前としてあるが、一部の講師の渡航費はアジア財団が負担してくれ、才1期の講師全員と才2期の講師3人にアジア財団から直接切符が送附された。

(I) 収入	究附金	4,650,000 円	
	参加費 日本人	1,017,864 円	（宿泊費、食費の形で払つて頂いたもので参加費という名目になる）
	外人	46,000 円	（registration fee の形で1人2,000 ずつ頂戴した）
	合 計	5,713,864 円	

(II) 支出

アカデミーハウスへの支払	1,764,500 円
ロングビーチホテルへの支払	609,726 円
外人への講演謝礼、国内滞在費 国内旅行費等	2,166,784 円
会期中の雑費（レセプションの 費用を含む）	654,022 円
準備費（学振、事務局における 事務費）	325,853 円
未処理金	192,979 円
合 計	5,713,864 円

東京夏の学校の事務報告

以上の支出には、会期前の準備に要した費用（たとえば、秘書の人件費、電話代、通信費等）の大部分はまだ含まれて居らず、未処理金はその精算および出版などの費用にあてらるつもりである。

事務を引受けて約1年、なれないことばかりのため、かなりの不手際のあつれことと思う。とくにいろいろな通知の出し方、応募者の選考、奨励金の問題PRの方法などで御迷惑をかけたことも多いと思いますが、この紙面をかりてお詫びしたい。また外人で日本各地を旅行した際、各地の方々にお世話になつたことを感謝し、旅行計画の度重なる変更のため多くの御迷惑をかけたことをお詫びする。今年の体験を生かして、来年度の事務局では同じような不手際のないことを願ひする。最後に物性関係で運営委員として事務にもいろいろ御協力下さつた阿部、伊豆山、森の3氏に厚くお礼申し上げる。